

# 香川大学の平成18年度に係る業務の実績に係る評価結果（概要）

（評価の詳細は、別添資料「国立大学法人香川大学の平成18年度に係る業務の実績に係る評価結果」をご参照ください。）

- 国立大学法人評価結果の構成
  - 1 全体評価
  - 2 項目別評価
    - I. 業務運営・財務内容等の状況（5種類で評価されます。末尾をご参照ください。）
      - （1）業務運営の改善及び効率化
      - （2）財務内容の改善
      - （3）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供
      - （4）その他業務運営に関する重要事項
    - II. 教育研究等の質の向上の状況（中期目標・中期計画期間終了後に評価されます。）

## 1 全体評価

香川大学は、「香川大学憲章」及び「香川大学将来構想」を策定し、特に後者は次期中期計画策定の基礎となるもので、学内の意見を集約し、経営協議会学外委員や学外有識者の意見を踏まえて、中長期ビジョンを将来構想としてまとめている。これら将来構想に基づく具体的施策は、平成19年度から実施することとしている。

また、法人経営体制の確立と効果的運用を推進するため、学長特別補佐を2名増員し、学長のサポート体制を充実強化し、将来構想等を踏まえた大学運営のための体制整備が着々と進んでおり、今後の成果が期待される。

## 2 項目別評価

### I. 業務運営・財務内容等の状況（5種類で評価）

#### （1）業務運営の改善及び効率化

①評価結果……**中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。**

②評価された取り組み例

○大学運営特別経費を新設し、国立大学法人評価委員会において特に評価が高かった事項及び年度計画達成に向け特に重点的に推進する必要のある事項について資源配分が行われている。

○研究経費の不正使用等への対応として、月次監査における物品の現物検査を科学研究費補助金等による購入設備について重点的に実施するよう見直すとともに、職員の意識高揚を図るため、ウェブサイトにて監査結果及び改善状況等を取りまとめた「指摘事項等管理表」及び「発見事項等整理表」を掲載し、周知徹底している。

○目標管理制度及び能力評価制度の平成19年度本格実施に向け、評価規程等の整備、評価電算システム導入を決定するなど人事・給与面への反映方法が策定されている。

#### （2）財務内容の改善

①評価結果……**中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。**

②評価された取り組み例

○長期的な取組を必要とする研究、又は外部資金の獲得が難しい基礎研究を支援するための「特別奨励研究経費」及び外部資金等競争的資金の獲得額等によって部局へ

傾斜配分を行う「インセンティブ経費」を設け、基礎教育研究に対する支援体制の構築及び学内の競争的環境を醸成し、学内の教育研究の調和を図る仕組みとしている。

○附属病院について、各診療科ごとの数値目標の達成状況の検証、手術枠の効率的運用など増収方策等により、附属病院収入は対前年度比約9億1,000万円(約9%)の増収となっている。

○中期計画における総人件費改革を踏まえた人件費削減目標の達成に向けて、着実に人件費削減が行われている。

### ③課題

○外部資金比率が4.9%(対前年度比0.2%減)となっていることから、外部資金獲得に向けて更なる取組が期待される。

## (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供

①評価結果……**中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。**

### ②評価された取り組み例

○学生による授業評価の結果を教員及び部局長だけでなく、学生にも公表するとともに、学長への提案箱に投函のあった学生の意見に対し対応するなど、情報公開の促進や、学生への適切な対応が行われている。

○教員活動評価については、「教育、研究、社会貢献、運営」の4領域に分類し、年次ごとに評価領域を追加していく、雁行的な方式で評価制度を確立し、給与・処遇への反映を平成21年度を目途としていたが、前倒しし平成20年度に給与・処遇に反映させることとしている。平成18年度は、評価結果を給与・処遇に反映させるための基本方針が策定されている。

## (4) その他業務運営に関する重要事項

①評価結果……**中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。**

### ②評価された取り組み例

○安全・安心な教育研究基盤施設の再生整備を実施方針としたキャンパスマスタープランが策定されている。

○「香川大学における競争的資金等の運営及び管理に関する取扱規程」を制定し、研究費の不正使用防止のための体制・ルールが整備されている。

○平成17年度評価結果において課題として指摘された事項については、危機管理対策について、災害・大規模事故等の危機に備えるため、学外関係機関等との連携を強め、大学としての危機管理基本マニュアル及び危機ごとの個別マニュアルを作成し、全学的・総合的な危機管理体制を確立するなど、指摘に対する取組が行われている。

## II. 教育研究等の質の向上の状況

(年度評価はしない。中期目標・中期計画期間終了後に評価される。)

### ○注目される取り組み例

- ・全教員を対象に授業改善のための少人数FD、スキルアップ講座が開設されている。
- ・学長裁量経費による「学生支援プロジェクト事業」を創設し、学生の自立的活動を支援している。
- ・地域の発展と相互の交流、人材育成等に寄与することを目的とし、三木町及び希少糖生産技術研究所との包括連携協定を締結し、旧小中学校校舎を利用した「三木町希少

糖研究研修センター」における人材育成事業に有効活用している。

- 学際的な新学問領域の重点的な開拓や社会的変化への機動的な対応を可能とする部局横断的な研究推進体制の構築を目的として、研究推進機構が設置されている。
  - 診療科マニフェストに対するヒアリングの実施や評価に応じた人員配置の試行等の積極的な取組の結果、着実に改善が図られており、収入面でも実績をあげている。また、卒後臨床研修センターの充実や高度先進医療開発支援にも努めている。その他、各診療科の治療成績公表も評価できる取組である。
- 今後、卒後臨床研修・後期研修の充実や高度先進医療の開発・実施の推進に努めるとともに、診療科機能を更にレベルアップするための病院全体としての対策を講じるなど、運営充実に向けた更なる取組が期待される。

<参考>

評価の種類

- 中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
- 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
- 中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
- 中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている。
- 中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある。